

剣道時代

特集
新剣道の技術
第58弾
SPECIAL FEATURE

KENDOJIDAI
7 2020 JULY
NUMBER-580
MONTHLY KENDO MAGAZINE
定価 980 円
taiiku-sports.co.jp

表紙&インタビュー
YUICHI YONEYA
米屋勇一
(埼玉県警察)

特別企画
最強一人
トレーニング&ストレッチ
ランニング、体幹トレーニング、ストレッチ…。
剣道に効果的な楽しい
トレーニングとストレッチを教えます。

特集
少年剣道の現場シリーズ
こうして
子供のモチベーション
を維持する
自宅待機が続いている子供たちに現場指導者は、
さまざまな工夫を凝らしてメッセージを送り、
剣道に対する意欲を維持している

小説中山博道 - 番外編
博道かく語りき
構成・注●堂本昭彦
中山博道がみずから語ったあの時代のこの修行

中止決定の全国高校選抜大会
出場校
未来への決意

強力連載
宮崎史裕 実戦剣道教室
山神真一 剣道の魅力
生涯剣道への道しるべ
剣道歴史案内 東京タワー(東京)
田原弘徳の面を取ってもとまらない

埼玉
米屋

素振り

新型コロナウイルスのため
剣道界も稽古の自粛を
余儀なくされている。
それなら素振り、いまこそ素振り。
素振りは一入稽古の王道、
素振りを徹底して
ピンチを
チャンスに変えよう

徹底

投稿 現場からの報告

私たちはこうして子供のモチベーションを維持している(上)



ホームページで
情報共有
田尾逸人(片瀬剣友会)

現在当剣友会はこの環境下で子供たちの剣道に対するモチベーションを維持してもらうために「仲間との絆」をテーマに子供たち同士がつながることができる環境を提供する活動をしています。

稽古は国の指針に沿って2月22日を最後に子供たちの安全を考え自粛しています。その時から当剣友会代表が中心となり子供たちのモチベーションを維持するための活動がスタートしました。

まず今の子供たちはスマホやタブレットを使いこなすことができるので直接み

てもらうことを目的としてホームページをコミュニケーションツールとして使うことにしました。

ホームページで共有している内容は子供たちへの「近況報告」と指導者からの「子供たちへの伝えたい事」です。

「近況報告」は仲間の近況を画像とともに掲載して「会えなくても元気にしてるよ」ということみんなでも共有してほしいという思いで設けました。

「子供たちへの伝えたい事」は先生からの「熱いメッセージ」に加え「毎日の生



片瀬剣友会ホームページ <https://www.kataseken.com/>

活で意識してほしい3つをお願い」を掲載しました。「3つのお願い」の目的は仲間たちと同じ意識で毎日生活してほしいという思いからのせてます。

その「3つのお願い」は以下になります。

①勉強しよう！

勉強第一をお願いします。お休みだから勉強しなくていいのではなく、学校があるときと同じ時間に起きて学校があるときと同じように勉強してください。

②お母さんのお手伝いをしよう！

稽古や遠征についてきてくれているお母さんのお手伝いをしっかりしてください。毎日みんなが家にいるだけでお母さ

んは毎日お昼ごはんを作ったりしていつもより大変な毎日になってます。

お母さんに感謝しましょう！

③竹刀にさわろう！

剣道を忘れないように毎日竹刀に触って少しでも素振りをしてください。先生たちは勉強とお手伝いは苦手なので教えることはできませんが、素振りメニューは作ることができます。

スペシャルメニューがほしい子供はいつでも連絡ください。

この掲載をきっかけに子供たちから連絡がくるようになりました。子供たちからは「素振りを見てほしい」、「強くなるための練習方法を教えてほしい」等の声が多くありました。その声をきっかけに「オンライン剣道教室」を開催することになりました（あえて学校に登校するであろう朝7時30分まで開催しています）。

内容は「3つのお願いはできているか？の確認」、「子供たち向けの座学」、「トレーニング」です。中でも「子供たち同士の会話」と「子供たちが先生からの指示に従うだけでなく自発的に剣道のことを考える機会」を重視したのであえて座学の時間を長くするようにしています。座学では竹刀を鉛筆に持ち替えて普段の稽古でなかなかできない授業形式をとり「自分の弱点」や「苦手なタイプ」等の子供たちに考えさせ、その攻略方法や練習方法を対話しながら教えていくよ

うにすすめています。授業形式にすることにより子供たちは画面を通じて仲間の顔をみながら楽しく剣道のことを考え、笑顔で会話するようになりました。

当剣友会ではこれらの取り組みを通じて子供たちの剣道に対するモチベーショ

ンを維持しようと活動をしております。今のこの状況がいつまで続くかわかりませんがこの状況を逆手に取り「仲間との絆」を深めることができる環境をこれからも作ることができればと考えてます。